令和４年度自己点検・自己評価調査結果

１．自己点検・自己評価の目的

JA 北海道厚生連旭川厚生看護専門学校の教育理念に沿った教育水準の向上を図り、外部からの意見を聴取し、今後の学校運営に寄与することを目的とする。

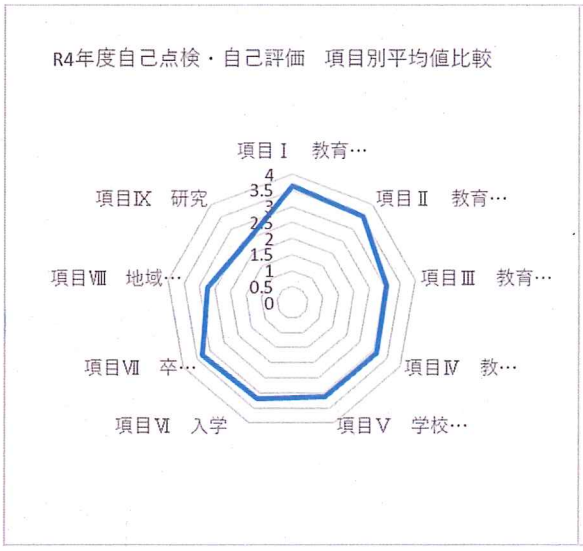
２．本校の自己点検・自己評価方法

本校の自己点検自己評価は、厚生労働省の評価を元に当校の状況に合わせて修正し、実施した。

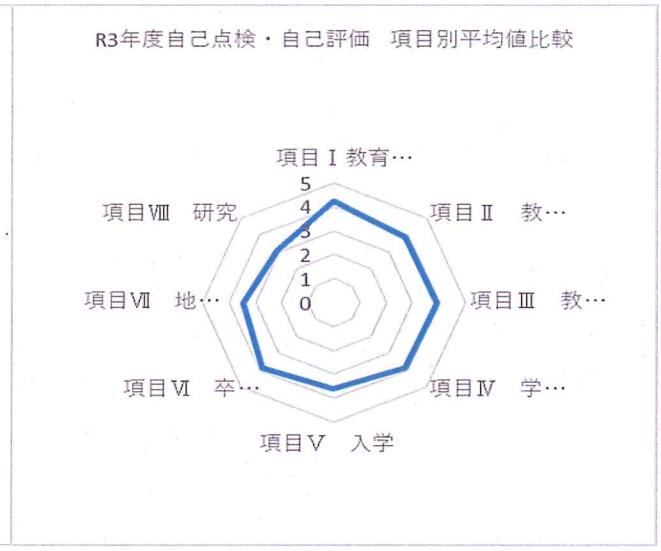
３．評価結果

カテゴリー	項目	令和２年度 平均値	令和３年度 平均値	令和４年度 平均値
Ⅰ育理念・目的・目標	5	2.45	4.25	3.65
Ⅱ育目標	3			3.52
Ⅲ育課程・教育活動	18	2.4	3.88	3.09
Ⅳ授・学習・評価課程	11	2.4	3.91	3.12
Ⅴ校運営	18	2.3	3.85	3.12
Ⅵ　入学	2	2.4	3.6	3.2
Ⅶ業・就職・進学	4	2.0	3.83	3.3
Ⅷ域社会・国際交流	5	1.9	3.46	2.74
Ⅸ研究	1	1.5	3.1	2.37
総合平均点	67	2.2	3.74	3.12

令和４年度グラフ



令和３年度グラフ



昨年度の自己評価点検表は、カテゴリーは8つで114項目、今年度は、点検評価項目を再度修正して9つ（理念・目的と目標を別に）、67項目で行った。また、評価点の択肢についても5項目から4項目と修正し行った。

今年度の全体平均点は3.12点(3.74)であった。内容の平均点が3点未満のものは「Ⅷ地域社会国際交流」「Ⅸ研究」であった。いずれも平均点を下回った。

評価項目ごとに見ると平均点以下の項目は13項目あった。

項目としては、

Ⅲ 教育課程・教育活動の「教育課程を評価する体系を整えている」が2.7点、「教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数を配分している」が2.8点、「教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている」が1.5点、「教員が成長できるよう、自己研鑽や相互研鑽のシステムを整えている」2.6点。

Ⅳ教授・学習・評価課程の「Ⅳ7学習への動機づけと支援のためにシラバスと便覧を活用し、教員間で共有し養成所全体で協力し行っている」2.7点。

Ⅴ学校運営　「V2教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している」、「V3養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限・役割機能が記載され、意思決定システムが整っている」2.9点、「V5学習・教育の質の向上につながる財政基盤が確保されている」2.8点。

Ⅶ「Ⅶ4卒業生の活動状況を把握し、教育理念・教育目的、教育目標、授業展開に活用している」2.6点。

Ⅷ地域社会・国際交流「Ⅷ1地域ニーズを把握し、地域社会への貢献を組織的に行っている」2.67点、「Ⅷ2養成所の教育活動について地域社会ニーズを把握し発信している」2.48点、「Ⅷ5国際的な視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている」2.21点。

Ⅷ研究「Ⅸ1教員の研究活動のサポート体制が整っている」2.37点。

前年度は、授業準備体制・相互研鑽システム、研究に関する項目が最も低い状況にあり、また、卒業生状況を把握し教育課程に活かすようなシステム作りを重点課題としたが取組改善には至っていない。

今年度の結果においても「教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている」が全体の項目で最も低い点数であった。卒業生の状況把握については、系列医療機関へ入職した学生については、医療機関訪問の際に状況はある程度把握できるものの他医療機関へ入職した学生の把握については改善を要する。また、卒業生のアンケート結果でホームカミングディ（学校里帰り日）についてのニーズの回答では、59.2%の学生が「利用したい」と回答しており、今後の検討としたい。今年度から新ｶﾘｷｭﾗﾑとなりⅣ教授・学習・評価課程においても経過を注視する必要がある。

また、Ⅷ「地域社会・国際交流」の項目も点数が低かったが、地域開催のイベントへボランティアとして参加できた。また、新ｶﾘｷｭﾗﾑの地域・在宅看護論概論やコミュニティデザインなどの授業を通して、地域社会との交流や今後の地域の課題などを考える機会となった。

学校運営において、母体である厚生連の中・長期計画や学校運営の状況について教員への情報提供と共有を密に行うことが必要である。

４．重点課題と今後について

（１）教育を行っていく上で、授業準備体制・相互研鑽できることは重要である。業務改善を行い教員と教務事務と連携協働し教員が授業準備の時間が確保し教育活動を行えるように改善を行っていく。

（２）教授・学習・評価課程においてシラバスの評価、計画についての全体討議・共有など教員間の連携と共通理解を行っていく。

（３）卒業生の状況を追跡把握し、教育課程に反映できるように改善していく。また、教育課程評価ができるように委員会を機能させ検討していく。

（４）地域へ広く本校を知っていただける機会が持てるように地域交流のイベントを企画したり、ボランティア参加をおこなっていく。

５．その他

自己評価内容を一部変更したが、評価項目の視点や課題への取組について今後も共通認識を図っていく。